

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	法医学			担当教員名	相原 弼徳				
実務経験等	市大法医学教員として勤務していた経験から、法医学の基礎を深める授業を行う。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門基礎分野「疾患の成り立ちと回復の過程」8死 P194～P197及び「身近な法医学」を対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	死の概念、死の判定、死亡原因、死体現象等を理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版 へるす出版 18,000円プラス税					評価方法	筆記				
授業内容											
1	法医学概論				9	早期死体現象					
2	司法解剖と行政解剖				10	早期死体現象					
3	臨床的死の判定基準・死の定義				11	晩期死体現象					
4	植物状態・脳死判定				12	特殊死体現象					
5	死亡診断書の意義				13	死後経過時間の推定					
6	異状死				14	小テスト					
7	死体現象総論				15	まとめ					
8	早期死体現象										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	感染と免疫			担当教員名	豊田 美弥子				
実務経験等	看護師として大学病院で臨床経験有り（資格：看護師／救急救命士） 過去の国家試験問題を分析し、出題傾向や重要ポイントをおさえた上で各分野との結びつきを大切にしながら、理解しやすい言葉でわかりやすく授業を行う（講師歴 13年）										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「救急医学概論」8 感染対策P282～P293及び「疾病救急医学」11 感染症P635～P643を対面授業で実施し、筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	感染対策及び感染症の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	感染対策：感染予防策と感染防御					9	インフルエンザ				
2	感染対策：救急活動での感染防御					10	食中毒				
3	感染対策：洗浄と消毒					11	輸入感染症				
4	感染対策：感染事故と事故後の対応					12	発疹性感染症				
5	感染症：総論①					13	性感染症				
6	感染症：総論②					14	皮膚・軟部組織の感染症				
7	敗血症					15	その他の感染症				
8	結核										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	心肺停止Ⅰ			担当教員名	大木 明日香				
実務経験等		医療機関で救急救命士として経験をもつ教員が、心肺停止について各種気道確保の手順や手技、病態含めて理解させる。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要		救急救命士標準テキスト専門分野「救急医学概論」7 救急救命士が行う処置P344～392 8 救急蘇生法 P419～P428 対面で授業を実施し、筆記試験で効果を測定する。									
到達目標		心肺停止状態の病態生理の理解と適切な処置ができることを目標とする。 心肺停止Ⅰでは、各種の気道確保及び気管挿管について総合的に理解させる。									
使用教材		救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税					評価方法			筆記	
授業内容											
1	救急蘇生法の概要					9	救急蘇生法の実際（8） 小児に対する一次救命処置				
2	救急蘇生法の実際（1） 成人に対する一次救命処置					10	救急蘇生法の実際（9） 小児に対する一次救命処置				
3	救急蘇生法の実際（2） 成人に対する一次救命処置					11	救急蘇生法の実際（10） 小児に対する二次救命処置				
4	救急蘇生法の実際（3） 成人に対する一次救命処置					12	救急蘇生法の実際（11） 小児に対する二次救命処置				
5	救急蘇生法の実際（4） 成人に対する二次救命処置					13	救急蘇生法の実際（11） 小児に対する二次救命処置				
6	救急蘇生法の実際（5） 成人に対する二次救命処置					14	救急蘇生法の実際（12） 医療機関での治療				
7	救急蘇生法の実際（6） 成人に対する二次救命処置					15	まとめ				
8	救急蘇生法の実際（7） 小児に対する一次救命処置										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	心肺停止Ⅱ			担当教員名	大木 明日香				
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員が、心肺停止状態の病態生理の理解及び適切な処置の基礎知識を習得させるとともに、薬剤投与について総合的・重点的に知識を習得させる。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト第3章 1 医薬品の基礎P.200～204 2 重要な医薬品P.205～210、専門分野「救急医学概論」7 救急救命士が行う処置P.383～392 8 救急蘇生法P.419～P.428及び専門分野「救急病態生理学」5 心肺停止P.477～P.485を対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する										
到達目標	心肺停止状態の病態生理の理解と適切な処置ができることを目標とする。 心肺停止Ⅱでは、薬剤投与について総合的に理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	救急蘇生法（1）				9	救急救命士が行う処置（1） 静脈路確保と輸液					
2	救急蘇生法（2）				10	救急救命士が行う処置（2） 静脈路確保と輸液					
3	心肺停止（1）				11	救急救命士が行う処置（3） アドレナリン投与					
4	心肺停止（2）				12	救急救命士が行う処置（4） アドレナリン投与					
5	医薬品の基礎（1）				13	救急救命士が行う処置（5） アドレナリン投与					
6	医薬品の基礎（2）				14	救急救命士が行う処置（6） アナフィラキシー傷病者に対する自己注射用アドレナリンの投与					
7	重要な医薬品（1）				15	まとめ					
8	重要な医薬品（2）										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	症候と病態Ⅲ			担当教員名	大木 明日香				
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員が、救急救命士の応急処置拡大にともなう【心肺停止前に対する静脈路確保】、【血糖測定】及び【低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与】についての状態判断及び処置内容について確実に習得させる。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト従い、対面授業で15回実施し、16回目に筆記試験で効果測定する。範囲: P.200～207・ P260～P270・ P276～P281・ P341～P343・ P383～P394・ P463～P469・ P488～491・ P605～P612・ P750～P754										
到達目標	救急救命士の応急処置拡大にともない、心肺停止前に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与について確実に理解させることを目標とする。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版社 18,000プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	救急救命士に関連する法令					9	クラッシュ症候群の病態とその対応				
2	糖尿病の病態と合併症					10	安全管理と事故対応				
3	糖尿病の治療					11	血糖測定の手技と測定機器の取扱い				
4	低血糖の病態					12	心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の手技・ショックの対応				
5	重要な薬剤 ・ブドウ糖・乳酸リンゲル液 ・経口血糖降下薬・インスリン					13	心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の手技・クラッシュ症候群の対応				
6	意識障害をきたす疾患とその鑑別					14	意識障害の鑑別、低血糖の判断とプロトコールの実施				
7	各種ショック等の病態と治療（1） ショックの原因別分類・鑑別と輸液の効果					15	ショックの判断、病態の鑑別とプロトコールの実施				
8	各種ショック等の病態と治療（2） ショックの原因別分類・鑑別と輸液の効果										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	呼吸器疾患			担当教員名	豊田 美弥子				
実務経験等	看護師として大学病院で臨床経験有り（資格：看護師／救急救命士） 過去の国家試験問題を分析し、出題傾向や重要ポイントをおさえた上で各分野との結びつきを大切にしながら、理解しやすい言葉でわかりやすく授業を行う（講師歴 13年）										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「疾病救急医学」2呼吸系疾患P558～P566及び「救急病態生理学」1呼吸不全P454～P457を対面授業で実施し、筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	呼吸系疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	呼吸不全：総論				9	呼吸系疾患：下気道と肺胞の疾患③					
2	呼吸不全：低酸素血症の発症機序				10	呼吸系疾患：感染症①					
3	呼吸不全：高二酸化炭素血症の発症機序、換気障害の種類				11	呼吸系疾患：感染症②					
4	呼吸系疾患：総論①				12	呼吸系疾患：胸膜疾患					
5	呼吸系疾患：総論②				13	呼吸系疾患：その他の呼吸系疾患①					
6	呼吸系疾患：上気道の疾患				14	呼吸系疾患：その他の呼吸系疾患②					
7	呼吸系疾患：下気道と肺胞の疾患①				15	まとめ					
8	呼吸系疾患：下気道と肺胞の疾患②										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	循環器疾患			担当教員名	黒田 勝美				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の実務経験を持つ教員が、循環器系疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解させ、観察、評価、処置及び搬送に反映・習得させる。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「疾病救急医学」3循環器疾患P567～P586及びP458～P462までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	循環器系疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映される。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	総論					9	その他の心疾患				
2	動脈硬化					10	血管疾患				
3	うっ血性心不全					11	高血圧				
4	虚血性心疾患					12	心電図の解読				
5	虚血性心疾患					13	心電図の解読				
6	心筋疾患・心膜疾患					14	心電図の解読				
7	不整脈					15	循環器系疾患のまとめ				
8	不整脈										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	消化器疾患			担当教員名	豊田 美弥子				
実務経験等	看護師として大学病院で臨床経験有り（資格：看護師／救急救命士） 過去の国家試験問題を分析し、出題傾向や重要ポイントをおさえた上で各分野との結びつきを大切にしながら、理解しやすい言葉でわかりやすく授業を行う（講師歴 13年）										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「疾病救急医学」4 消化系疾患 P 587～P 596を対面授業で実施し、筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	消化系疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	総論Ⅰ				9	腸疾患Ⅰ					
2	総論Ⅱ				10	腸疾患Ⅱ					
3	歯・口腔疾患				11	急性腹膜炎					
4	食道疾患Ⅰ				12	肝臓・胆道・膵臓の疾患Ⅰ					
5	食道疾患Ⅱ				13	肝臓・胆道・膵臓の疾患Ⅱ					
6	胃・十二指腸疾患Ⅰ				14	肝臓・胆道・膵臓の疾患Ⅲ					
7	胃・十二指腸疾患Ⅱ				15	まとめ					
8	胃・十二指腸疾患Ⅲ										
特記事項											



学科名	救急救命科昼間課程	科目名	泌尿器疾患			担当教員名	豊田 美弥子				
実務経験等	看護師として大学病院で臨床経験有り（資格：看護師／救急救命士） 過去の国家試験問題を分析し、出題傾向や重要ポイントをおさえた上で各分野との結びつきを大切にしながら、理解しやすい言葉でわかりやすく授業を行う（講師歴 13年）										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「疾病救急医学」5 泌尿・生殖系疾患 P 5 9 7～P 6 0 3 までを対面授業で実施し、筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	泌尿系疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	総論Ⅰ					9	尿路の疾患Ⅰ				
2	総論Ⅱ					10	尿路の疾患Ⅱ				
3	総論Ⅲ					11	尿路の疾患Ⅲ				
4	腎臓の疾患Ⅰ					12	尿路の疾患Ⅳ				
5	腎臓の疾患Ⅱ					13	女性生殖器の疾患				
6	腎臓の疾患Ⅲ					14	男性生殖器の疾患				
7	腎臓の疾患Ⅳ					15	まとめ				
8	腎臓の疾患Ⅴ										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	神経・内分泌系疾患等			担当教員名	大木 明日香				
実務経験等	医療機関の救急救命士としての経験を持つ教員が、神経内分泌疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置及び搬送に反映させるよう習得させる。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「疾病救急医学」1 神経系疾患 P546～557 6代 謝・内分泌・栄養系疾患P604～P616 7 血液・免疫系疾患P617～621 8 筋・骨 格系疾患P622～626 9 皮膚系疾患 P627～629 10 目・鼻・耳の疾患P630～634 までを 対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	神経内分泌疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	神経系疾患（1）					9	筋・骨格系疾患（1）				
2	神経系疾患（2）					10	筋・骨格系疾患（2）				
3	神経系疾患（3）					11	皮膚疾患（1）				
4	神経系疾患（4）					12	皮膚疾患（2）				
5	内分泌・代謝・栄養障害（1）					13	目・鼻・耳の疾患（1）				
6	内分泌・代謝・栄養障害（2）					14	目・鼻・耳の疾患（2）				
7	血液・免疫系疾患（1）					15	まとめ				
8	血液・免疫系疾患（2）										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	高齢者疾患			担当教員名	大木 明日香				
実務経験等	医療機関で救急救命士としての経験を持つ教員が、現場活動の経験をもとに高齢者疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について習得させ、観察、評価、処置及び搬送に反映させるよう習得させる。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「疾病救急医学」P658～P664高齢者疾患を対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。(P.50～51 高齢者虐待対策参照)										
到達目標	高齢者疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映される。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	加齢と老化					9	主な疾患 せん妄				
2	高齢者疾患の特徴等					10	主な疾患 誤嚥性肺炎				
3	高齢者疾患の症候（1）					11	主な疾患 肺気腫、脱水				
4	高齢者疾患の症候（2）					12	主な疾患 骨粗鬆症				
5	高齢者への対応					13	主な疾患 前立腺肥大症				
6	主な疾患 認知症					14	主な疾患 廃用症候群				
7	主な疾患 認知症					15	まとめ				
8	主な疾患 高齢者虐待										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	産婦人科			担当教員名	中川 朝美				
実務経験等	・助産師として(常勤10年、アルバイト現在継続)・小児科病棟看護師4年勤務・救急救命士養成校エルスタ東京、県消防学校非常勤として10年以上教育する。・開業助産院2012年～ 助産師、看護師としての経験から、フルホスピタルとして必要な教育を講義する。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「疾病救急医学」14 妊娠・分娩と救急疾患P665～P675及び「救急医学概論」7 救急救命士が行う処置V産婦人科領域の処置P415～P416までを対面授業とシミュレーションで実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	産婦人科疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版 へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	正常妊娠					9	観察と処置				
2	正常妊娠					10	観察と処置				
3	異常妊娠					11	観察と処置				
4	異常妊娠					12	産科領域と処置				
5	正常分娩					13	分娩シミュレーション				
6	正常分娩					14	分娩シミュレーション				
7	異常分娩					15	まとめ				
8	異常分娩										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	小児科疾患			担当教員名	中川 朝美				
実務経験等	助産師、看護師としての経験から、フルホスピタルとして必要な教育を講義する。 助産師として(常勤10年、アルバイト現在継続)・小児科病棟看護師4年勤務・救急救命士養成校エ ルスタ東京、県消防学校非常勤として10年以上教育する。・開業助産院2012年～										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「疾病救急医学」1 2 小児に特有な疾患P 6 4 4 ~P 6 5 4 までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	小児科疾患の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処 置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	総論Ⅰ				9	主な疾患 急性細気管支炎・気管支喘息					
2	総論Ⅱ				10	主な疾患 腸重積・急性腹症					
3	総論Ⅲ				11	主な疾患 HUS・川崎病					
4	観察と判断Ⅰ				12	主な疾患 突発性発疹・流行性耳下腺炎					
5	観察と判断Ⅱ				13	主な疾患 溶連菌感染症・SIDS					
6	観察と判断Ⅲ				14	主な疾患 被虐待児症候群					
7	主な疾患 熱性痙攣・髄膜炎				15	まとめ					
8	主な疾患 脳炎・脳症・クループ										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	精神科疾患			担当教員名	大木 明日香				
実務経験等	医療機関の救急救命士として実務経験を持つ教員が、精神障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解させ、観察、評価、処置及び搬送に反映・習得させる。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「疾病救急医学」15精神障害P676～P686までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	精神障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映される。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	総論Ⅰ				9	中毒性障害					
2	総論Ⅱ				10	中毒性障害					
3	総論Ⅲ				11	その他の精神障害					
4	統合失調症				12	その他の精神障害					
5	統合失調症				13	向精神薬の主な副作用					
6	気分障害				14	向精神薬の主な副作用					
7	器質性精神障害				15	まとめ					
8	器質性精神障害										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	一般外傷Ⅰ			担当教員名	石渡 郁男				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の実務経験を持つ教員が、外傷についての発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解させ、観察、評価、処置及び搬送に反映・習得させる。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「外傷救急医学」P 688～P 714 1 外傷総論、2 外傷の病態生理、3 外傷の現場活動までを対面授業で実施し、筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	一般外傷における受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	疫学と外傷システム：外傷の患者数、外傷による死亡					9	外傷の病態生理Ⅲ：外傷に伴うショック				
2	受傷機転Ⅰ：受傷機転とエネルギー					10	外傷の病態生理Ⅳ：外傷によるショックに対する輸液				
3	受傷機転Ⅱ：外傷の分類					11	外傷の現場活動Ⅰ：状況評価				
4	受傷機転Ⅲ：主な受傷形態①					12	外傷の現場活動Ⅱ：傷病者の評価①				
5	受傷機転Ⅳ：主な受傷形態②					13	外傷の現場活動Ⅲ：傷病者の評価②				
6	受傷機転Ⅴ：主な受傷形態③					14	外傷の現場活動Ⅳ：傷病者の評価③				
7	外傷の病態生理Ⅰ：侵襲への反応①					15	外傷の現場活動Ⅴ：傷病者の評価④				
8	外傷の病態生理Ⅱ：侵襲への反応②										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	一般外傷Ⅱ			担当教員名	豊田 美弥子				
実務経験等	看護師として大学病院で臨床経験有り（資格：看護師／救急救命士） 過去の国家試験問題を分析し、出題傾向や重要ポイントをおさえた上で各分野との結びつきを大切にしながら、理解しやすい言葉でわかりやすく授業を行う（講師歴 13年）										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「外傷救急医学」P 7 3 3～P 7 5 9 8胸部外傷～1 2小児・高齢者・妊婦の外傷までを対面授業で実施し、筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	一般外傷における受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	胸部外傷：疫学、受傷機転、病態					9	腹部外傷：現場活動				
2	胸部外傷：主な外傷①					10	骨盤外傷：疫学、受傷機転、病態				
3	胸部外傷：主な外傷②					11	骨盤外傷：主な外傷、現場活動				
4	胸部外傷：主な外傷③					12	四肢外傷：疫学、病態 主な外傷①				
5	胸部外傷：現場活動					13	四肢外傷：主な外傷②、現場活動				
6	腹部外傷：疫学、受傷機転、病態					14	小児・高齢者・妊婦の外傷：小児の外傷				
7	腹部外傷：主な外傷①					15	小児・高齢者・妊婦の外傷：高齢者及び妊婦の外傷				
8	腹部外傷：主な外傷②										
特記事項											



学科名	救急救命科昼間課程	科目名	頭部・頸椎・顔面損傷等			担当教員名	豊田 美弥子				
実務経験等	看護師として大学病院で臨床経験有り（資格：看護師／救急救命士） 過去の国家試験問題を分析し、出題傾向や重要ポイントをおさえた上で各分野との結びつきを大切にしながら、理解しやすい言葉でわかりやすく授業を行う（講師歴 13年）										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「外傷救急医学」5頭部外傷、6顔面・頸部外傷、7脊椎・脊髄外傷 P715～P732までを対面授業で実施し、筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	頭部・顔面・頸部損傷等の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	頭部外傷：疫学、受傷機転					9	顔面・頸部外傷：主な外傷②				
2	頭部外傷：病態					10	顔面・頸部外傷：現場活動①				
3	頭部外傷：主な外傷①					11	顔面・頸部外傷：現場活動②				
4	頭部外傷：主な外傷②					12	脊椎・脊髄外傷：疫学、脊椎損傷の受傷機転				
5	頭部外傷：主な外傷③					13	脊椎・脊髄外傷：病態				
6	頭部外傷：現場活動					14	脊椎・脊髄外傷：主な外傷				
7	顔面・頸部外傷：疫学、特徴					15	脊椎・脊髄外傷：現場活動				
8	顔面・頸部外傷：主な外傷①										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	熱傷・運動器損傷等			担当教員名	石渡 郁男				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、熱傷及び運動器損傷の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野「外傷救急医学」13熱傷から17刺咬傷P760～P785までを対面授業で実施し、筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	熱傷及び運動器損傷の発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解し、観察、評価、処置、及び搬送に反映させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	熱傷：疫学と受傷機転・病態					9	電撃傷・雷撃傷：電撃傷				
2	熱傷：注意を要する熱傷					10	電撃傷・雷撃傷：雷撃傷				
3	熱傷：評価					11	縊頸・絞頸				
4	熱傷：現場活動					12	刺咬症（傷）：哺乳類				
5	化学損傷：各種の化学損傷①					13	刺咬症（傷）：爬虫類				
6	化学損傷：各種の化学損傷②					14	刺咬症（傷）：節足動物・海洋生物				
7	化学損傷：観察・処置					15	まとめ				
8	電撃傷・雷撃傷：電撃傷、雷撃傷について										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅱ(前期)①			担当教員名					
実務経験等		医療機関で救急救命士として経験を持つ教員と消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年次に習得した知識・技術を迅速・的確に実施することを身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要		実習室を使用し、1年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につける。									
到達目標		習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に行うことを身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改定10版へるす出版 18,000円プラス税					評価方法			実技	
授業内容											
1	心肺蘇生法				9	静脈路確保要領					
2	心肺蘇生法と除細動プロトコール				10	薬剤投与要領					
3	声門上気道デバイスを用いた気道確保要領				11	薬剤投与要領					
4	声門上気道デバイスを用いた気道確保想定				12	薬剤投与プロトコール					
5	気管挿管要領				13	薬剤投与プロトコール					
6	気管挿管要領				14	気管挿管から薬剤投与					
7	気管挿管・食道挿管対応要領				15	気管挿管から薬剤投与					
8	気管挿管・吸引要領										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅱ(前期)②			担当教員名					
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員と消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年次に習得した知識・技術を迅速・的確に実施することを身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室を使用し、1年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につける。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に行うことを身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改定10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	内因性疾患対応・初期評価、状況評価					9	意識障害傷病者対応・クモ膜下出血				
2	内因性疾患対応・初期評価、状況評価					10	意識障害傷病者対応・低血糖発作				
3	意識障害傷病者観察要領					11	ショックの鑑別				
4	意識障害傷病者観察要領					12	ショックの鑑別				
5	意識障害傷病者観察・脳血管障害					13	クラッシュ症候群対応要				
6	意識障害傷病者観察・脳血管障害					14	ショック傷病者に対する急速輸液要領				
7	意識障害傷病者対応・その他					15	心肺停止前特定行為プロトコール想定				
8	意識障害傷病者対応・その他										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅱ(前期)③			担当教員名					
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員が、1年次に習得した知識・技術を迅速・的確に実施することを身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室を使用し、1年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につける。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践力を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改定10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	呼吸不全傷病者の対応P454～P457				9	腹痛傷病者の対応P592～P533					
2	ショック症状傷病者の対応P463～P469				10	腰・背部痛傷病者の対応P573～P539					
3	心不全傷病者の対応P458～P462				11	一過性意識消失と失神傷病者の対応P591～P521					
4	大量出血傷病者の対応				12	痙攣傷病者の対応P497～P502					
5	意識障害傷病者の対応P488～P491				13	精神症状の傷病者の対応P676～P686					
6	心肺停止傷病者の対応P477～P485				14	運動障害傷病者の対応P503～P506					
7	頭痛傷病者の対応P492～P496				15	しびれを訴える傷病者の対応					
8	胸痛傷病者の対応P680										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅱ(前期)④			担当教員名					
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員が、1年次に習得した知識・技術を迅速・的確に実施することを身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室を使用し、1年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につける。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践力を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改定10版 へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	外傷活動・状況評価と初期評価					9	外傷・緊急処置要領				
2	外傷活動・状況評価と初期評価					10	外傷全身観察からの緊急処置要領				
3	外傷初期評価・活動性出血対応要領					11	外傷・ログロール要領				
4	外傷初期評価・吸引、気道確保要領					12	外傷・腹臥位からのログロール要領				
5	外傷初期評価・ヘルメット離脱要領					13	外傷・立位からのログロール要領				
6	外傷活動・全身観察要領					14	外傷活動総合想定				
7	外傷活動・全身観察要領					15	外傷活動総合想定				
8	外傷活動・全身観察要領										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅱ(前期)⑤				担当教員名				
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員が、1年次に習得した知識・技術を迅速・的確に実施することを身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室を使用し、1年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につける。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践力を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	めまいの傷病者対応				9	下痢の傷病者対応					
2	視覚障害の傷病者対応				10	性器出血の傷病者対応					
3	呼吸困難傷病者の対応				11	精神障害の傷病者対応					
4	動悸の傷病者対応				12	循環不全の傷病者対応					
5	嘔吐の傷病者対応				13	循環不全の傷病者対応					
6	喀血と吐血の傷病者対応				14	意識障害の傷病者対応					
7	下血傷病者の対応				15	意識障害の傷病者対応					
8	排尿異常の傷病者対応										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅱ(後期)⑥			担当教員名					
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員と消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年次に習得した知識・技術を迅速・的確に実施することを身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	2学年	開講期		種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室を使用し、1年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につける。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践力を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版 へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	外傷の対応				9	腹部外傷傷病者の対応					
2	高エネルギー事故の対応				10	骨盤骨折傷病者の対応					
3	ショックの対応				11	四肢外傷傷病者の対応					
4	現場活動				12	皮膚・軟部組織外傷傷病者の対応					
5	頭部外傷傷病者の対応				13	多発外傷傷病者の対応					
6	顔面・頸部外傷傷病者の対応				14	妊婦等の外傷傷病者対応					
7	頸椎・脊髄外傷傷病者の対応				15	スポーツ外傷の傷病者対応					
8	胸部外傷傷病者の対応										
特記事項											



学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅱ(後期)⑦			担当教員名					
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員と消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年次に習得した知識・技術を迅速・的確に実施することを身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	2学年	開講期		種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室を使用し、1年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につける。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践力を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	神経系疾患傷病者の対応				9	歯・口腔系疾患傷病者の対応					
2	呼吸系疾患傷病者の対応				10	感染症傷病者の対応					
3	循環系疾患傷病者の対応				11	小児の救急疾患傷病者対応					
4	消化系疾患傷病者の対応				12	新生児の救急疾患傷病者対応					
5	泌尿・生殖器疾患傷病者の対応				13	高齢者の救急疾患傷病者対応					
6	内分泌・代謝障害の傷病者対応				14	妊婦等の傷病者対応					
7	血液・免疫系疾患傷病者の対応				15	精神障害傷病者の対応					
8	筋・骨格系疾患傷病者の対応										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅱ(後期)⑧			担当教員名					
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員が、1年次に習得した知識・技術を迅速・的確に実施することを身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	2学年	開講期		種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室を使用し、1年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につける。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践力を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	意識障害傷病者への対応				9	血液分布異常性ショック傷病者への対応					
2	低血糖発作傷病者に対する対応				10	クラッシュ症候群傷病者への対応					
3	高血糖傷病者に対する対応				11	多数傷病者現場での活動要領(1)					
4	意識障害・脳梗塞傷病者への対応				12	多数傷病者現場での活動要領(2)					
5	意識障害・脳出血傷病者への対応				13	多数傷病者現場での活動要領(3)					
6	意識障害・クモ膜下出血傷病者への対応				14	心肺停止前傷病者に対する各特定行為プロトコール					
7	外傷活動に伴う急速輸液要領				15	心肺停止前傷病者に対する各特定行為プロトコール					
8	心原性ショック傷病者に対する対応										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅱ(後期)⑨			担当教員名					
実務経験等	医療機関で救急救命士として経験を持つ教員が、1年次に習得した知識・技術を迅速・的確に実施することを身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	2学年	開講期		種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室を使用し、1年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につける。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践力を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	高齢者の対応				9	動脈硬化傷病者の対応					
2	呼吸障害傷病者の対応				10	慢性閉塞性肺疾患傷病者の対応					
3	循環障害傷病者の対応				11	気道異物傷病者の対応					
4	意識障害傷病者の対応				12	骨粗鬆症傷病者の対応					
5	腰・背部痛傷病者の対応				13	泌尿器障害傷病者の対応					
6	歩行困難傷病者の対応				14	異物誤飲傷病者の対応					
7	脳血管障害傷病者の対応				15	体温異常傷病者の対応					
8	大血管障害傷病者の対応										
特記事項											